

令和2年度
島根県学力調査
結果概要

令和3年2月19日（金）
島根県教育委員会

I 実施概要

1 目的

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休業等が行われ、各学校において教育課程の見直し等の様々な工夫により教育活動の充実が図られる中、学習指導要領における各教科の目標や内容に照らした学習の状況及び学習や生活に関する意識や実態を客観的に把握し、児童生徒に必要な指導・支援を行うとともに、今後の学校における指導と教育施策の一層の改善・充実に資する。

2 実施日

令和2年12月8日(火)・9日(水)

3 実施校数

公立小学校（県立特別支援学校小学部を含む） 203校

公立中学校（県立特別支援学校中学部を含む） 97校

義務教育学校 1校

（国立義務教育学校及び私立中学校は不参加）

4 実施学年・教科・人数

			教科に関する調査			意識調査	県全体の 在籍者数 (R2.9.1現在)
			国語	算数 数学	英語		
小学校	第5学年	実施人数	5,493	5,499		5,496	5,735
		割合(%)	95.8	95.9		95.8	
	第6学年	実施人数	5,457	5,455		5,457	5,728
		割合(%)	95.3	95.2		95.3	
中学校	第1学年	実施人数	5,466	5,476	5,468	5,454	5,737
		割合(%)	95.3	95.5	95.3	95.1	
	第2学年	実施人数	5,429	5,429	5,426	5,433	5,801
		割合(%)	93.6	93.6	93.5	93.7	

5 県調査の考え方・特徴

(1) 全国学力・学習状況調査（以下「全国調査」という。）と島根県学力調査（以下「県調査」という。）をつなげたPDCAサイクルの構築を推奨している。

①全国調査で明らかになった課題を改善するための指導の取組を、県調査で検証するPDCAサイクルを確立し、指導の改善を効果的に進める。

②当年度の指導の状況について客観的に評価し、個別指導を充実することにより、年度内に身に付けるべき力を着実に身に付けられるようにする。

※令和2年度は、全国調査が中止となったため、令和元年度全国調査及び県調査で明らかとなった課題の改善状況を検証し、指導の改善を図る。

(2) 教科に関する調査

フォローアップ機能の充実を図るため標準学力調査を活用する。

(3) 生活・学習に関する意識調査

標準学力調査の質問項目及び県独自に設定した質問項目について調査する。

(4) 課題をとらえやすい帳票とWeb評価支援システムの提供

各学校が自校の課題をとらえやすいよう帳票の各種データ表示を工夫するとともに、Web上で結果データを分析することができるWeb評価支援システムを提供する。

(5) 子どもたちの事後学習を促すための個人帳票とフォローアップ教材の提供

結果を記載した個人帳票に加え、事後学習に活用できるフォローアップ教材を提供する。

6 用語

○平均正答率 : 全設問の正答率の平均値。

・島根県値 : 県内の受検者の正答率の平均値。

・全国値 : 受託業者が過去の実績をもとに、受検データから推定した値。

○領域 : 学習指導要領において、各教科の学習内容を系統的に示したもの。
算数であれば「数と計算」「図形」など。

7 公表する調査結果（教育指導課ホームページにも掲載）

令和2年度島根県学力調査 結果概要 *本資料

I 実施概要

II 教科に関する調査の結果

III 意識調査の結果概要

IV 今後の対応

II 教科に関する調査の結果

○教科平均正答率とは、教科における全設問の正答率の平均値を表している。

島根県値：県内の受検者の正答率の平均値 全国値：受託業者が過去の実績をもとに、受検データから推定した値

【小学校国語】

1 全体的な結果の概要（○成果 ●課題）

(%)

学 年		第5学年		第6学年	
		島根県値	全国値	島根県値	全国値
教科平均正答率		60.6	67.1	62.7	67.1
領域別 平均正答率	話すこと・聞くこと	69.1	70.8	68.7	68.5
	書くこと	46.0	66.4	51.6	64.7
	読むこと	60.4	63.2	69.9	69.4
	言葉の特徴や使い方に関する事項	64.6	68.7	61.8	67.1
	情報の扱い方に関する事項	31.8	37.0	45.7	45.5

【昨年度の課題】

- A 「書くこと」目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くこと
- B 「読むこと」複数の文章を比較して読んだり、図やグラフなどを対応させて読んだりすること
- C 同音異義の漢字について、文の中で正しい意味をとらえて使うこと
- D 文の構成について、修飾・被修飾の関係を理解すること

【今年度の状況】

- ・教科平均正答率の島根県値は、第5学年、第6学年ともに全国値を下回った。
- ・「話すこと・聞くこと」についてはほぼ全国値並みであった。
- ①「話すこと・聞くこと」について、話し合いを良くするための話し手の工夫を捉えることは概ねできている。
- ②「書くこと」について、第6学年では、伝えたいことに適した図表を選択肢から選ぶことは概ねできている。
- ③「読むこと」について、描写をもとに登場人物の心情や行動をとらえたり、叙述をもとに文章の内容をとらえたりすることは概ね定着が見られる。
- ④連体修飾語の役割についての理解については改善が見られる。・・・D
- ①「書くこと」について、無解答率が高く、指定された条件で書くことに課題が見られる。
- ②事実や理由をもとに自分の意見を明確にして書くことに課題が見られる。・・・A
- ③文脈に沿って同音異義語を使い分けることについては引き続き課題が見られる。・・・C
- ④第6学年においては、尊敬語と謙譲語の使い方の理解に課題が見られる。

2 比較的できている問題

第5学年（1）

〔問題番号〕 3（1）「言葉の特徴や使い方に関する事項」 ④
 [島根県値 74.2%]
 [全国値 77.8%]

〔問題内容〕

一文に含まれる修飾語を選択肢から選ぶ。

〔出題のねらい〕

文中での語句の係り方についての理解をみる。

第6学年（1）

〔問題番号〕 6（1）「書くこと」 ②
 [島根県値 87.2%]
 [全国値 87.4%]

〔問題内容〕

インタビューや調べたことをもとに給食だよりを書く際の工夫について捉える。

〔出題のねらい〕

自分の考えが伝わるよう、言いたいことに適した図表やグラフなどを選ぶことができるかをみる。

第5学年（2）

〔問題番号〕 1（2）「話すこと・聞くこと」	①
	〔島根県値 83.3%〕
	〔全国値 84.7%〕
〔問題内容〕	
学級会での話し合いの様子についてメモを取りながら聞き取り、質問に答える。	
〔出題のねらい〕	
計画的に話し合い、考えを広げるための発表者の工夫を聞き取る力をみる。	

第6学年（2）

〔問題番号〕 4（2）「読むこと」	③
	〔島根県値 84.2%〕
	〔全国値 82.6%〕
〔問題内容〕	
文学作品を読んで、文章表現から登場人物の心情や人物像を読み取る。	
〔出題のねらい〕	
登場人物の心情について、描写をもとに捉える力をみる。	

3 課題のある問題

第5学年（1）

〔問題番号〕 7 「書くこと」	①②
	〔島根県値 58.2%〕
	〔全国値 85.3%〕
〔問題内容〕	
2枚のポスターについてより効果的だと思うものについて、自分の考えを条件に従って作文する。	
〔出題のねらい〕	
目的や意図に応じて、理由をもとに自分の意見を明確にして書く力をみる。	

第6学年（1）

〔問題番号〕 7 「書くこと」	①②
	〔島根県値 45.0%〕
	〔全国値 70.3%〕
〔問題内容〕	
アンケート調査のグラフから読み取ったことをもとに考えたことを、条件に従って作文する。	
〔出題のねらい〕	
目的や意図に応じて、事実をもとに自分の意見を明確にして書く力をみる。	

第5学年（2）

〔問題番号〕 3（5）「言葉の特徴や使い方に関する事項」	③
	〔島根県値 49.6%〕
	〔全国値 58.8%〕
〔問題内容〕	
文章の中から、間違っていて使われている漢字を抜き出し、正しく書き直す。	
〔出題のねらい〕	
文章の中で、文脈に沿った漢字を適切に使うことができるかみる。	

第6学年（2）

〔問題番号〕 3（3）「言葉の特徴や使い方に関する事項」	④
	〔島根県値 39.6%〕
	〔全国値 48.2%〕
〔問題内容〕	
職場体験での会話文から尊敬語を選んで選択肢を答える。	
〔出題のねらい〕	
日常の中でよくつかわれる敬語についての理解をみる。	

4 今後の指導のポイント

- (1) 「書くこと」においては、目的や意図に応じて、学年段階に応じた言語活動を設定する。
 - ・自分の考えを書くために集めた材料や情報の関係を整理し、示すべき理由や事例などを取捨選択したり構成したりして、伝えたいことを明確にして書く活動を行う。
 - ・目的や意図に応じて、文章全体の構成や展開が明確になっているかなどの観点から、互いに文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章の良いところを見つける活動を取り入れる。
- (2) 国語科での学習と他教科等での関連を図りながら、「書くこと」の習慣化を図る。
 - ・他教科等や家庭学習においても、目的や意図を明確にしてさまざまな文章を書く活動を計画的に取り入れる。
- (3) 「言葉の特徴や使い方に関する事項」について、活用を意識して反復的・継続的に指導する。
 - ・漢字について、文章の中で文脈に沿って書く活動を取り入れるなどして定着を図る。
 - ・尊敬語や謙譲語について、日常の会話や作文を通して正しく使い分けができるよう指導する。

【小学校算数】

1 全体的な結果の概要（○成果 ●課題） (%)

学 年		第5学年		第6学年	
		島根県値	全国値	島根県値	全国値
教科平均正答率		57.6	63.5	62.9	68.5
領域別 平均正答率	数と計算	64.0	68.3	65.3	70.9
	図形	54.9	65.0	62.3	66.9
	変化と関係	61.7	69.8	40.7	50.2
	データの活用	17.0	22.5	-	-

【昨年度の課題】

- A 「図形」に関わる問題について課題がある。
- B 小数倍の意味理解について、依然として課題がある。
- C 既習事項を活用したり、資料の特徴や傾向を関連付けたりしながら方法や理由を記述する問題に課題がある。

【今年度の状況】

- ・教科平均正答率の島根県値は、第5学年、第6学年ともに全国値を下回った。
 - ・第5学年の「図形」、第6学年の「変化と関係」の正答率が他の領域と比べると低い。
- ① 計算問題は、概ね定着が図られている。
 - ② 比較量、基準量、割合について、数量の関係を捉えることに改善が見られつつあり、引き続き指導の充実を図っていくことが求められる。・・・B
- ① 分数、小数の意味理解に関わる問題は誤答率が高く課題がある。
 - ② 「図形」に関わる問題について引き続き課題がある。・・・A

2 比較的できている問題

第5学年（1）

〔問題番号〕 1（2） 「数と計算」	☞①
〔島根県値〕	84.5%
〔全国値〕	88.2%
〔問題内容〕	
2つの整数の最小公倍数を選択肢の中から選ぶ問題。	
〔出題のねらい〕	
最小公倍数について理解し、それを求めることができるかみる。	

第6学年（1）

〔問題番号〕 3（4） 「数と計算」	☞①
〔島根県値〕	86.8%
〔全国値〕	88.7%
〔問題内容〕	
分数のわり算	
〔出題のねらい〕	
分数÷分数（約分2回）の計算ができるかみる。	

第5学年（2）

〔問題番号〕 8（1） 「数と計算」	☞②
〔島根県値〕	56.3%
〔全国値〕	55.7%
〔問題内容〕	
基準量より比較量が減少しているテープの長さを求めるとき、 $+$ $-$ \times \div のうちどの計算を使えばよいかを選ぶ問題。	
〔出題のねらい〕	
図を見て、小数倍の文章問題（純小数倍、比較量を求める）を解くための演算決定ができるかみる。	

第6学年（2）

〔問題番号〕 5（1） 「数と計算」	☞②
〔島根県値〕	80.8%
〔全国値〕	81.4%
〔問題内容〕	
基準量より比較量が増加しているテープの長さを求める問題。	
〔出題のねらい〕	
基準量が分数の場合において、分数倍の比較量を求めることができるかみる。	

3 課題のある問題

第5学年（1）

〔問題番号〕 5 「数と計算」 ①
[島根県値 47.0%]
[全国値 57.7%]
〔問題内容〕
ある数を小数でわった計算結果が、もとの数と比べてどうなるか問う問題。
〔出題のねらい〕
小数の除法において、除数による、被除数と商の大小関係を理解しているかみる。

第6学年（1）

〔問題番号〕 10（1） 「変化と関係」 ①
[島根県値 17.1%]
[全国値 32.1%]
〔問題内容〕
分数：分数を整数：整数に変形する問題。
〔出題のねらい〕
等しい比について理解しているかみる。 (分数比)

第5学年（2）

〔問題番号〕 14 「図形」 ②
[島根県値 33.9%]
[全国値 46.9%]
〔問題内容〕
図に書かれている辺の長さや角の大きさを使って合同な三角形がかけられるか判断する問題。
〔出題のねらい〕
合同な三角形を作図できる条件を理解しているかみる。

第6学年（2）

〔問題番号〕 11（2） 「図形」 ②
[島根県値 68.1%]
[全国値 73.8%]
〔問題内容〕
底面積と高さがわかっている角柱の体積を求める問題。
〔出題のねらい〕
角柱の体積を求めることができるかみる。

4 今後の指導のポイント

- (1) 数量の関係を多様な図で適切に表す活動や、かかれた図から関係を読み取る活動の充実を図る。
 - ・四則計算の学習においては、低学年から継続して、具体物や図を用いるなどして根拠を明確したうえで演算決定することを大切にする。
 - ・小数や分数の学習においては、図や数直線などを用いて考える過程をいっそう重視し、小数や分数の意味や大きさを、実感をもって適切に捉えられるようにする。
- (2) 図形の性質、図形の構成の仕方、図形の計量について、図形を構成する要素とその関係、図形間の関係に着目して考察する活動の充実を図る。
 - ・図形をかいたり、切ったり、並べたり、作ったり展開したりするなどの数学的活動を通して、図形の構成要素や性質に着目する学習活動をいっそう重視する。その際、児童が試行錯誤する過程を大切に、図形の性質や構成の仕方、計量の仕方について実感を伴った考察ができるようにする。
- (3) 児童がやってみたいという思いをもち、考えること、やりきることを楽しみながら学習に取り組めるよう、児童一人一人の考えを大切に学習のいっそうの充実を図る。
 - ・具体物、図、言葉、数、式、表、グラフを用いて自分の考えを表現する活動をいっそう重視し、必ずしも正答を導き出せていない場合の考え方も適切に取り上げ、友達といっしょに検討することによりよい考え方にしていく過程を通して、一人一人の学びを確実に深めていけるようにする。
 - ・学習を振り返る活動を大切に、問題解決がなぜうまくできたのか、なぜうまくできなかったのか考えるなどして解決の仕方を捉え直す活動、もっとよい方法はないのか、ほかの場面でも使えないのか考えるなどによりよく問題解決をする活動を充実させることにより、算数が好きな児童、算数をもっと追究したいと考える児童を増やせるようにする。

【中学校国語】

1 全体的な結果の概要 (○成果 ●課題) (%)

学 年		第1学年		第2学年	
		島根県値	全国値	島根県値	全国値
教科平均正答率		70.9	71.3	68.0	70.4
領域別 平均正答率	話すこと・聞くこと	78.0	78.6	65.0	67.8
	書くこと	59.8	60.7	60.6	63.5
	読むこと	69.2	69.0	61.3	62.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.9	77.2	76.5	79.1

【昨年度の課題】

- A 資料の中から情報を取り出し、自分が伝えたいことの根拠として読み手にわかりやすいように書くこと (第2学年)
- B 話し合いの話題や方向を捉えること (第1学年)
- C 文章の展開について自分の考えをまとめること (第1学年)
- D 単語の分類の理解については文節と混同する誤答が多く、課題がある。(第1学年)
- E 「読むこと」について、他の領域に比べ正答率が低い。

【本年度の状況】

- ・ 教科平均正答率の島根県値は、ほぼ全国値並みである。
- ・ 各領域についても、島根県値は全国値並みである。
- ①「読むこと」について、文学作品や説明文の内容を読み取ることは、改善傾向にある。・・・E
- ② 聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取ることについては正答率が高い。
- ③ 文を単語に分けることについては改善傾向にある。・・・D
- ① 集めた材料を分類したうえで整理して書くことに課題がある。
- ② 資料の中から情報を取り出し、自分の考えの根拠として関連付けて書くことについては、依然として課題がある。・・・A
- ③ 第1学年においては、漢字の書きについて、小学校で学習した内容の定着が十分でないものもある。
- ④ 文を構成する品詞の分類についての理解に課題がある。・・・D

2 比較的できている問題

第1学年 (1)

[問題番号] 5 (1) 「読むこと」 ㊦①
[島根県値] 63.9%
[全国値] 62.5%
[問題内容]
文学作品を読んで、文章表現から登場人物の心情や人物像を読み取る。
[出題のねらい]
場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解することができるかみる。

第2学年 (1)

[問題番号] 1 (2) 「話すこと・聞くこと」 ㊦②
[島根県値] 90.8%
[全国値] 89.4%
[問題内容]
発表会のための話し合いの様子から、聞き手に理解してもらうための話し方の工夫をとらえる。
[出題のねらい]
話し手の意見の述べ方の特徴や方向性を捉えることができるかみる。

第1学年(2)

[問題番号] 3 (2) 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」 ③
 [島根県値 66.2%]
 [全国値 64.8%]

[問題内容]

一文を単語に分け、上から5番目の単語を答える。

[出題のねらい]

文中の文の成分についての理解をみる。

第2学年(2)

[問題番号] 4 (4) 「読むこと」 ①
 [島根県値 81.4%]
 [全国値 82.5%]

[問題内容]

説明文を読み、段落の役割や要旨を読み取る。

[出題のねらい]

文章から適切な情報を得て、文中の言葉を使いながら自分の考えをまとめることができるかみる。

3 課題のある問題

第1学年(1)

[問題番号] 6 (1) 「書くこと」 ①
 [島根県値 29.5%]
 [全国値 29.6%]

[問題内容]

インタビューメモをもとに書いた新聞の下書きについて、読み手にわかりやすい工夫を考える。

[出題のねらい]

メモの内容を分類したうえで整理して書く力をみる。

第2学年(1)

[問題番号] 7 「書くこと」 ②
 [島根県値 62.6%]
 [全国値 68.1%]

[問題内容]

作成した2枚のチラシのうちどちらがよいか、それぞれの特徴を挙げたうえで自分の考えを書く。

[出題のねらい]

資料の中から取り出した情報を根拠として分かりやすく書く力をみる。

第1学年(2)

[問題番号] 2 (2) 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」 ③
 [島根県値 41.9%]
 [全国値 40.8%]

[問題内容]

「キンム」を漢字に直して書く。

[出題のねらい]

小学校で学習した漢字を書くことについての定着をみる。

(※課題が見られたのは4問中1問)

第2学年(2)

[問題番号] 3 (1) 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」 ④
 [島根県値 36.9%]
 [全国値 44.6%]

[問題内容]

一文から指定された品詞をそのままの形で抜き出す。

[出題のねらい]

品詞についての理解をみる。

4 今後の指導のポイント

- (1) 「書くこと」においては、集めた材料から書きたいことの根拠となる情報を分類整理し、自分の考えと関係付けてわかりやすく伝える文章を書く学習の充実を図る。
 - ・集めた情報を比較したり分類したりしながら、自分の考えとどのような関係があるのかわかるように構成を工夫するなどして、論理的に記述する指導の充実を図る。
- (2) 言葉の特徴やきまりに関する事項や書写については、知識として学習したことを活用場面を通して確実に習得できるよう工夫する。
 - ・言葉の特徴やきまりに関する事項や書写については、単に知識として学習するのではなく、実際に話す、聞く、書くなどの言語活動を通して生きて働く力として身に付くよう、継続的に指導する。
- (3) 全ての領域において「考えの形成」を意識した学習指導の充実を図る。
 - ・様々な文章を読み、話や文章の中で使いこなせる語句を増やすとともに、全ての領域において、集めた客観的な資料等を整理し、それをもとに自分の考えを形成する学習過程をより重視して指導する。

【中学校数学】

1 全体的な結果の概要 (○成果 ●課題)

(%)

学 年	第 1 学年		第 2 学年		
	島根県値	全国値	島根県値	全国値	
教科平均正答率	57.4	56.6	56.2	58.8	
領域別 平均正答率	数と式	59.5	58.4	55.8	58.6
	図形	70.2	70.7	65.8	67.2
	関数	49.6	47.5	50.8	53.6
	資料の活用	-	-	-	-

【昨年度の課題】

- A 数量の関係や法則などを文字を用いた式に表すことができることを理解し、式を用いて表したり読み取ったりすることに課題がある。
- B 展開図や見取図を基に図形を考察したり、図形の各要素の関係を捉えたりすることに課題がある。
- C グラフから関数の式を求めることに課題がある。
- D 資料の活用について、用語の意味理解やヒストグラムからデータの分布の傾向を読み取ることに課題がある。

【今年度の状況】

- ・教科平均正答率の島根県値は、第1学年、第2学年とも全国値並みである。
- ・小学校で課題であった図形領域については改善傾向にある。
- ① 数と式の基礎的な問題は概ね定着している。
- ② 小学校で課題があった図形領域については、改善傾向にある。
- ① 文字を用いた式で数量の関係を捉え、説明することは無解答率が高く課題がある。・・・A
- ② 関数領域に課題がある。特に式とグラフを関連づけて考察することの課題が大きい。・・・C

2 比較的できている問題

第1学年(1)

<p>[問題番号] 6 (2) 「数と式」 ☞①</p> <p>[島根県値 71.5%] [全国値 68.6%]</p> <p>[問題内容] 文章から数量の関係を読み取り、正しい不等式を選ぶ。</p> <p>[出題のねらい] 数量の関係を表した不等式を選ぶことができるかみる。</p>
--

第2学年(1)

<p>[問題番号] 11 (1) 「図形」 ☞②</p> <p>[島根県値 75.8%] [全国値 69.8%]</p> <p>[問題内容] 平行線と同位角、錯角を用いて、角の大きさを求める。</p> <p>[出題のねらい] 平行線と同位角、錯角の関係について理解し、角の大きさを求めることができるかみる。</p>

第1学年(2)

<p>[問題番号] 13 (2) 「図形」 ☞②</p> <p>[島根県値 81.5%] [全国値 76.2%]</p> <p>[問題内容] 三角形を2点に対応するように平行移動させるとき、もとの三角形と移動させた三角形がかかれた図を正しく選ぶ。</p> <p>[出題のねらい] 三角形を平行移動させた図を選ぶことができるかみる。</p>

第2学年(2)

<p>[問題番号] 12 「図形」 ☞②</p> <p>[島根県値 46.5%] [全国値 40.4%]</p> <p>[問題内容] 図形の証明について書かれた文章を読んで、正しく証明されているか判断する。</p> <p>[出題のねらい] 証明の必要性と意味について理解しているかみる。</p>

3 課題のある問題

第1学年（1）

〔問題番号〕 9（2）	「関数」	②
	[島根県値]	31.7%
	[全国値]	31.0%
〔問題内容〕		
比例について、 x の増加量と y の増加量の関係を正しく述べた文章を選ぶ。		
〔出題のねらい〕		
比例の関係について理解しているかみる。		

第2学年（1）

〔問題番号〕 9	「関数」	②
	[島根県値]	42.0%
	[全国値]	49.1%
〔問題内容〕		
一次関数の式とグラフから、 x 軸 y 軸との交点を求める。		
〔出題のねらい〕		
座標軸上に頂点をもつ三角形の面積を求めることができるかみる。		

第1学年（2）

〔問題番号〕 15（2）	「数と式」	①
	[島根県値]	22.5%
	[全国値]	22.6%
〔問題内容〕		
規則的に並んだ図の構成要素の数を文字を使って表した式をみて、何を表しているか答える。		
〔出題のねらい〕		
考え方の図と式を関連付けて読み取り、式が表している数量がわかるかみる。		

第2学年（2）

〔問題番号〕 14（1）	「数と式」	①
	[島根県値]	37.8%
	[全国値]	43.6%
〔問題内容〕		
規則的に並んだ数を文字を使って表したとき、計算して得られた結果からどんなことがいえるか答える。		
〔出題のねらい〕		
説明を読み、式を変形する理由を完成することができるかみる。		

4 今後の指導のポイント

（1）数量の関係を捉え説明する学習場面の充実を図る。

- 文字を用いた式で数量及び数量の関係を説明したり、形式的な処理を施して得られた結果やその過程から新たな関係を導いたりする活動を大切にする。
- 問題解決の方法を説明し合う場面を設定し、説明が不十分だった際には、どのように考えることが問題解決につながるかを検討することを大切にし、よりよい数学的な表現を用いた説明の仕方ができるようにする。

（2）表、式、グラフを相互に関連付ける学習場面の充実を図る。

- 問題解決をするためにグラフにおいて着目すべき点と、その着目した点をどのように見ると問題解決につながるかを検討する活動を大切にする。
- 関数の特徴を表、式、グラフで捉えるとともに、それらを相互に関連付けることで理解を深められるようにする。

（3）生徒がやってみたいという思いをもち、考えること、やりきることを楽しみながら学習に取り組めるよう、生徒一人一人の考えを大切に学習のいっそうの充実を図る。

- 単にでき上がった数学を知るだけでなく、日常生活や社会の事象を数量や図形などの関係に着目して数学の舞台にのせ、観察や操作、実験などによって数や図形の性質などを見いだす活動を重視することにより、工夫、驚き、感動を味わい、数学を学ぶことの面白さ、考えることの楽しさを味わえるようにする。
- 自分の考えを数学的な表現を用いて説明する活動をいっそう重視し、必ずしも正答を導き出せていない場合の考え方も適切に取り上げ、友達といっしょに検討することでよりよい考え方にしていくなかで、一人一人の学びを確実に深めていけるようにする。

【中学校英語】

1 全体的な結果の概要 (○成果 ●課題) (％)

学 年		第 1 学年		第 2 学年	
		島根県値	全国値	島根県値	全国値
教科平均正答率		62.4	62.6	54.4	54.3
領域別 平均正答率	聞くこと	70.3	71.7	67.3	66.3
	話すこと	-	-	-	-
	読むこと	59.5	59.2	53.9	53.8
	書くこと	59.8	59.8	41.8	42.9

【昨年度の課題】

- A 与えられたテーマについて自分の考えを書いたり、対話の流れに沿って英文を書いたりするなど、場面や状況に応じて既習の語彙や文法を活用し英文を書く力
- B 聞いたり読んだりした内容をもとに思考・判断したうえで英文を書くなど領域を統合して活用する力

【今年度の状況】

- ・ 県平均正答率の島根県値は、第1学年、第2学年ともに全国値並みであった。領域別に見ても、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の平均正答率は、それぞれ全国値との差はなかった。
 - ・ 2年生「書くこと」の正答率が他の領域と比べると低い。
- ① 「聞くこと」においては、英文を聞いて情報を正確に聞き取ったり、まとまりのある英文を聞いて話の概要を聞き取ったりする力が概ね定着している。
- ② 「読むこと」においては、まとまりのある英文を読んで要点を把握する力が概ね定着している。
- ③ 「書くこと」においては、与えられたテーマについて自分の考えをまとまりのある文章で書く力が1年生については概ね定着している。・・・A
- ❶ 対話の流れに沿って英文を書いたりするなど、場面や状況に応じて既習の語彙や文法を活用し英文を書く力に引き続き課題が見られ、無解答率が高い。・・・A
- ❷ 聞いたり読んだりした内容をもとに思考・判断したうえで、既習の語彙や文法を活用し場面や状況に応じた英文を書くなど領域を統合して活用する力に引き続き課題が見られ、無解答率が高い。・・・B

2 比較的できている問題

第1学年（1）

〔問題番号〕 3 「聞くこと」 ☞①	
	[島根県値 92.1%]
	[全国値 91.9%]
〔問題内容〕	
まとまりのある英文を聞いて、話の流れに合うように場面絵を並びかえる。	
〔出題のねらい〕	
まとまりのある英文を聞いて、話の概要を捉える力をみる。	

第2学年（1）

〔問題番号〕 3 「聞くこと」 ☞①	
	[島根県値 94.2%]
	[全国値 93.4%]
〔問題内容〕	
まとまりのある英文を聞いて、話の流れに合うように場面絵を並びかえる。	
〔出題のねらい〕	
まとまりのある英文を聞いて、話の概要を捉える力をみる。	

第1学年（2）

〔問題番号〕 10 「書くこと」 ☞③	
	[島根県値 71.6%]
	[全国値 74.7%]
〔問題内容〕	
与えられたテーマについて、つながりのある3文以上の英文で書く。	
〔出題のねらい〕	
与えられたテーマについて、自分の考えをまとまりのある文章で書く力をみる。	

第2学年（2）

〔問題番号〕 8 (3) 「読むこと」 ☞②	
	[島根県値 70.1%]
	[全国値 67.9%]
〔問題内容〕	
まとまりのある英文を読んで、書き手が一番伝えなかったことを選択肢から選ぶ。	
〔出題のねらい〕	
まとまりのある英文を読んで要点を把握する力をみる。	

3 課題のある問題

第1学年（1）

〔問題番号〕 4 「聞くこと」「書くこと」 ㊦②
〔島根県値〕 40.9%
〔全国値〕 41.5%
〔問題内容〕
対話の内容を聞き取り、対話の流れにそった返答を3語以上の英文で書く。
〔出題のねらい〕
領域統合型の問題において、対話の内容を聞いて理解し、話の流れに合うように既習の語彙や文法を活用し英文を書く力をみる。

第2学年（1）

〔問題番号〕 5 「聞くこと」「書くこと」 ㊦②
〔島根県値〕 35.1%
〔全国値〕 34.4%
〔問題内容〕
対話の内容を聞き取り、対話の流れにそった返答を3語以上の英文で書く。
〔出題のねらい〕
領域統合型の問題において、対話の内容を聞いて理解し、話の流れに合うように既習の語彙や文法を活用し英文を書く力をみる。

第1学年（2）

〔問題番号〕 9（2）
「読むこと」「書くこと」 ㊦①②
〔島根県値〕 27.9%
〔全国値〕 27.8%
〔問題内容〕
対話文を読み、対話が成り立つように空欄に入る適切な英文を3語以上の1文で書く。
〔出題のねらい〕
領域統合型の問題において、対話の内容を読んで理解し、話の流れに合うように既習の語彙や文法を活用し英文を書く力をみる。

第2学年（2）

〔問題番号〕 10（2）
「読むこと」「書くこと」 ㊦①②
〔島根県値〕 18.1%
〔全国値〕 12.5%
〔問題内容〕
対話文を読み、対話が成り立つように空欄に入る適切な英文を3語以上の1文で書く。
〔出題のねらい〕
領域統合型の問題において、対話の内容を読んで理解し、話の流れに合うように既習の語彙や文法を活用し英文を書く力をみる。

4 今後の指導のポイント

（1）コミュニケーションの目的や場面、状況を明確にした言語活動を設定する。

- ・言語活動は、実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動を基本とし、生徒がコミュニケーションの目的や場面、状況等を意識して行うことができるように工夫する。

（2）語彙や文法事項等は言語活動と関連付けて指導する。

- ・語彙や文法事項等の指導は、互いの考えや気持ちを伝え合うなどの言語活動を通じて、生徒が活用することによって定着を図る。小学校で学習した語彙や表現などについては、中学校の言語活動において繰り返し活用し、生徒が話したり書いたりして表現できるようにする。

（3）複数の領域を統合した領域統合型の言語活動を設ける。

- ・聞いたり読んだりした内容について、自分の考えや気持ち、意見や感想を話したり書いたりして、伝え合う領域統合型の言語活動を設ける。
- ・読むだけにとどめずに、読んだ内容について、自分の考えを整理して述べるようにする具体的な指導としては、以下のような手順の言語活動が考えられる。（「平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査 報告書(国立教育政策研究所)」より抜粋)
 - ① 教科書等に取り上げられている環境問題などに関する説明文を読み、書き手の主張を数文でまとめる。
 - ② 話題になっている問題に対して、自分ができることなどについてペアやグループで尋ね合ったり伝え合ったりする。
 - ③ 活動の合間に、自分の使った英語を振り返り、表現の正確さを高める。
 - ④ ペアやグループで伝え合ったことを、最終的な自分の意見として簡潔に書いてまとめる。

Ⅲ. 意識調査の結果概要

1 令和元年度全国学力・学習状況調査から見た課題の改善状況を把握する質問項目

(1) 学習に対する関心・意欲・態度

R元_全国

* R元_全国:令和元年度全国学力・学習状況調査 R元_県:令和元年度県学力調査

各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を意識的に設けている学校の割合が全国より下回っている。

R元_県

子どもたちに、各教科で学んだことが普段の生活で活用できないか考えたり、いろいろな方法で問題を解こうとしたりする意欲の高まりがみられる。授業で学んだことを、ほかの学習に生かそうとする意識が今後更に向上するよう授業改善を図っていく必要がある。

- ① 問題を解くときは、以前解いた方法が使えるかどうか考えている。
- ② 授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べ学習を行っている。
- ③ 授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている。

(2) 授業改善の状況

R元_全国

算数・数学の指導として、発展的な学習の指導に取り組んでいる学校の割合は全国に比べ低い状況にある。

R元_県

子どもたちは、各教科において話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると感じており、各学校において、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善が図られていると考えられる。

- ④ 文章問題は、式や図に置きかえて考えている。
- ⑤ 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。
- ⑥ 「総合的な学習の時間」では、集めた情報を課題に沿って整理して考え、発表する学習に取り組んでいる。
- ⑦ 学校図書館を使った授業は、ほかの授業を行うときにも役立っていると思う。
- ⑧ 算数・数学で学習した知識（公式・法則など）を家の人（友だちをふくむ）に話している。

(3) 学習習慣

R元_全国

学校の授業時間以外に平日1時間以上勉強する中学3年生の割合について、依然として全国との差が大きい。

R元_県

効果的な家庭学習の仕方を指導したり、宿題を丁寧に点検したりするなど、各学校の意識の高まりがみられる。小6、中2の授業以外の平日（月曜日から金曜日）1日あたりの学習時間についてみると、年々時間が短くなっていることが大きな課題である。また、子どもたちが自ら学習に向かう姿勢についても課題がある。

- ⑨ 学校に行く日は、学校の授業時間以外に、1日にどのくらい勉強しますか。
- ⑩ 家の人から言われなくても、進んで勉強している。
- ⑪ 先生は家庭学習の仕方についてアドバイスしたり、やってきた宿題にコメントをしてくれたりしてくれる。

(4) その他

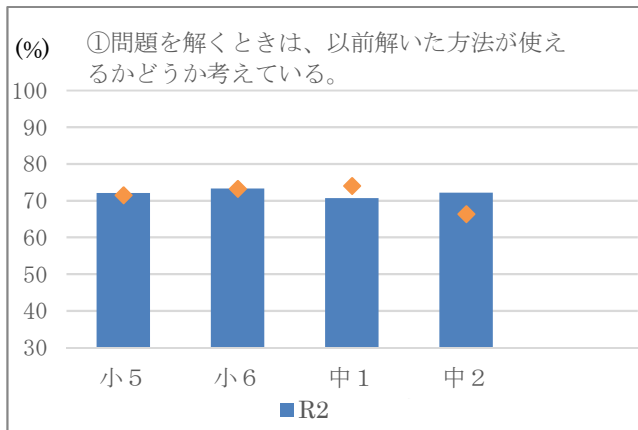
- ⑫ 普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを使っていますか。（勉強のための携帯電話やスマートフォンを使う時間は除く）

2 課題の改善状況

*表記 H29, H30, R1, R2 : 県学力調査 ◆ : R2 県学力調査全国値

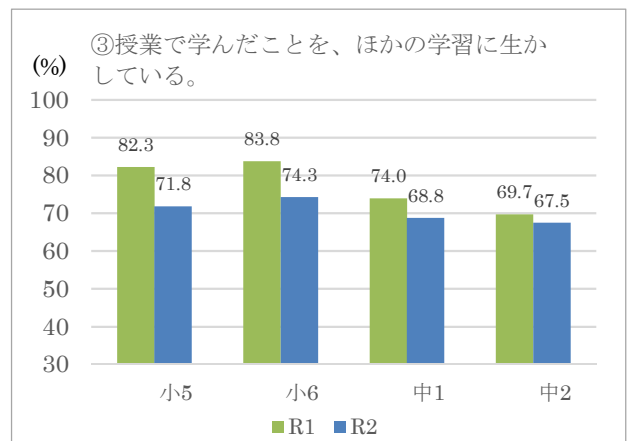
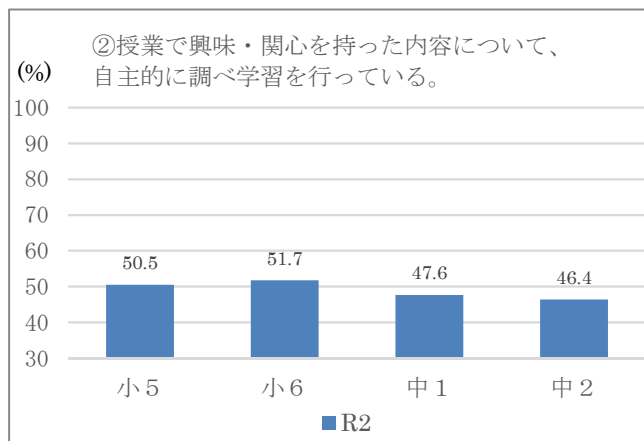
(1) 学習に対する関心・意欲・態度

- 問題を解くときに、以前解いた方法が使えるかを考えるなど、自らの力で課題を解決しようとする姿勢、学習に向かう意欲の高まりがみられる。
- 授業で学んだことを、ほかの学習に生かそうとする意識が高まるように、授業と家庭学習、学びを生かすことのできる地域に関わる学習の好循環を生み出す取組を進める必要がある。



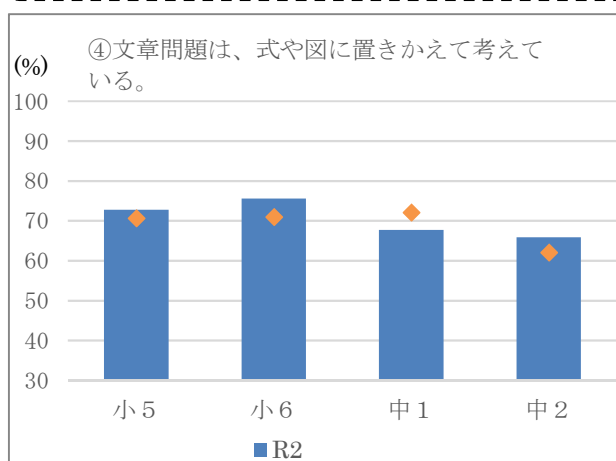
① (%)

	R2	全国値
小5	72.1	71.5
小6	73.3	73.2
中1	70.7	74.0
中2	72.2	66.3



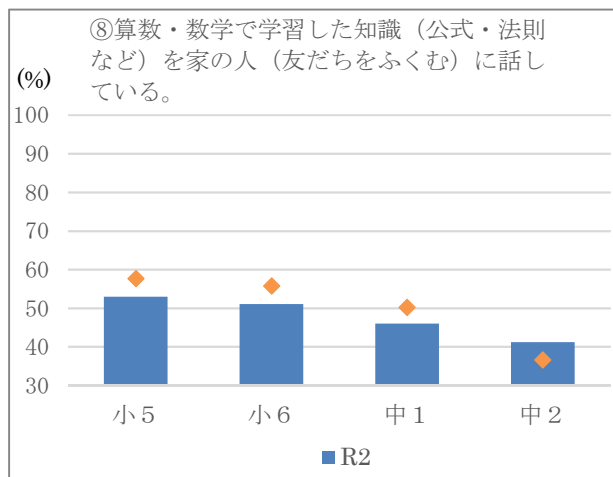
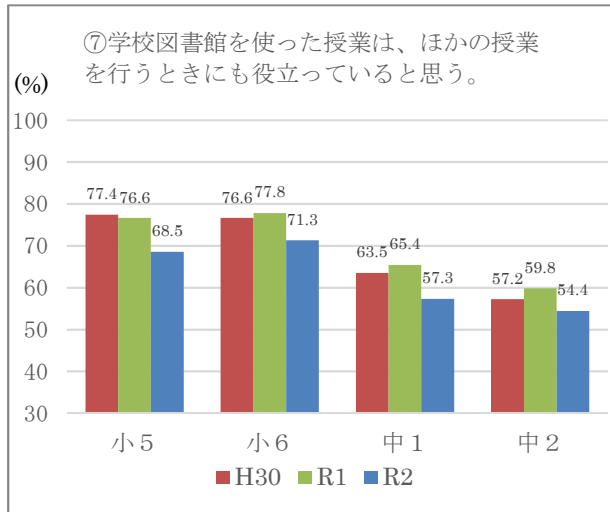
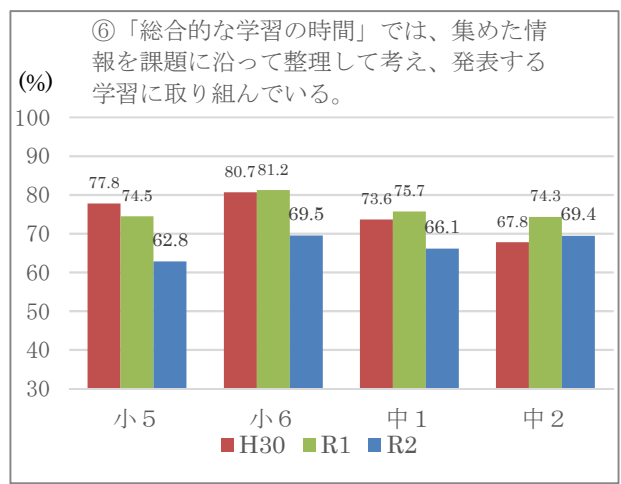
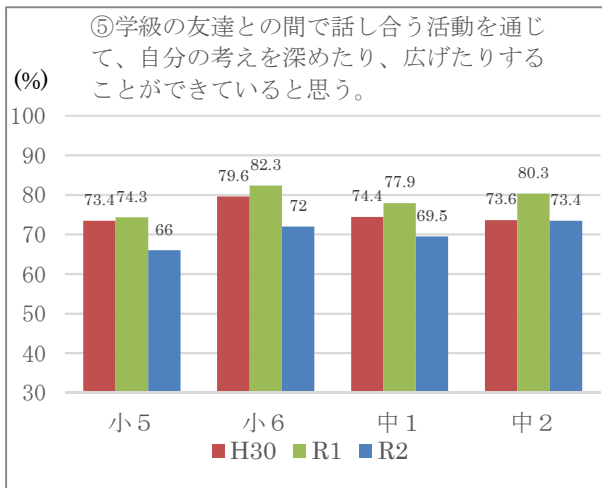
(2) 授業改善の状況

- 問題を解くときに、式や図、表などを活用し思考の整理を行う授業が展開されている。
- 各教科において話し合う活動を充実させるとともに、各教科の学習が地域や社会の役に立つことを理解できるよう、探究的な学習を推進していくことが重要である。
- 子どもたちが学習したことを家族に話したり、自ら辞書等を活用し調べたりするような興味・関心を高める学習題材、授業展開を研究する必要がある。



④ (%)

	R2	全国値
小5	72.8	70.7
小6	75.6	71.0
中1	67.7	72.1
中2	65.9	62.1

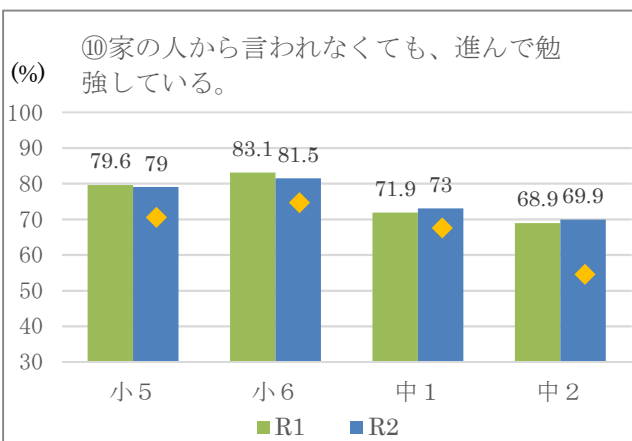
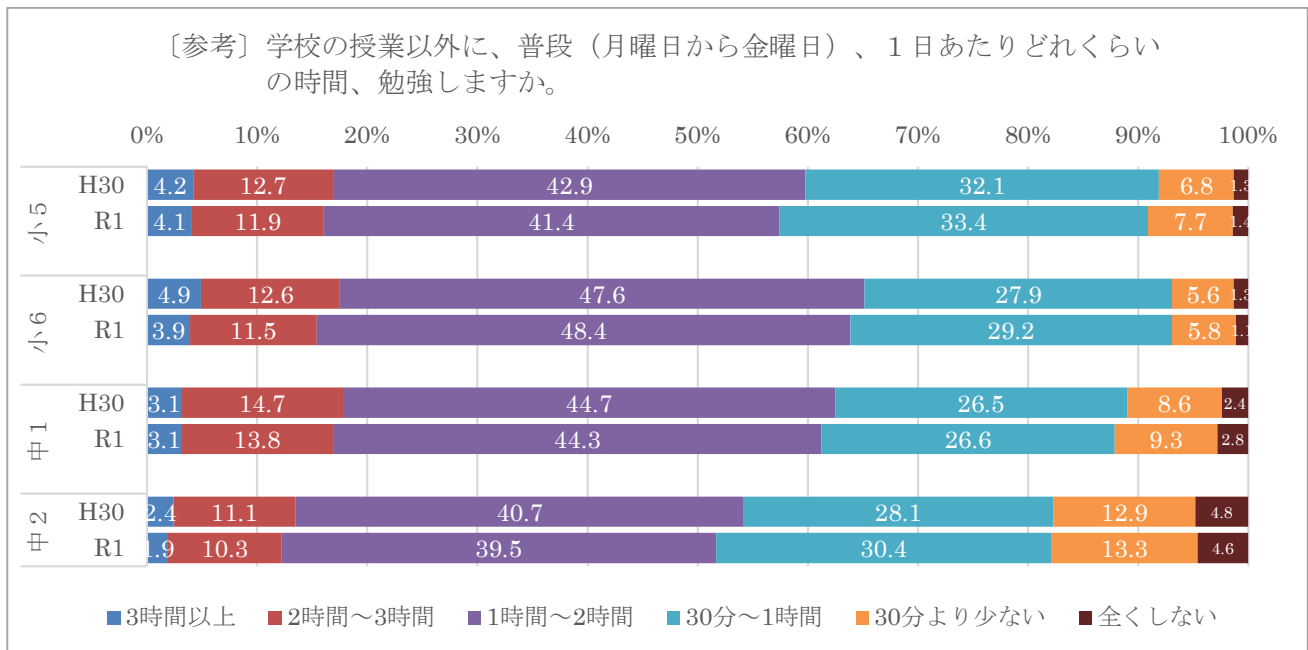
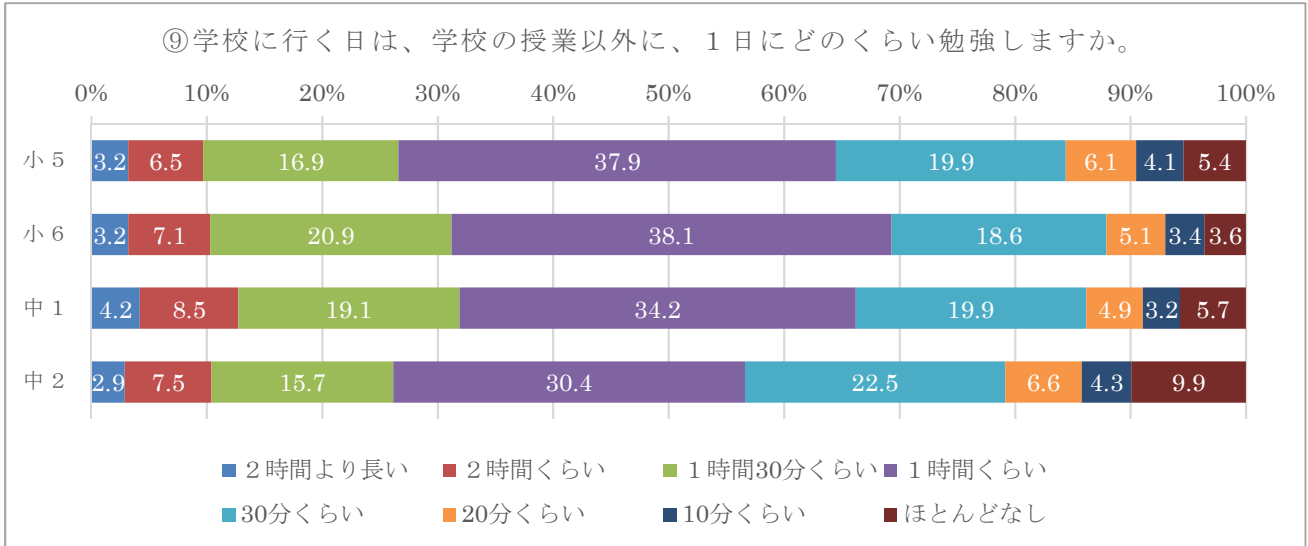


⑧ (%)

	R2	全国値
小5	53.0	57.7
小6	51.1	55.8
中1	46.0	50.2
中2	41.2	36.6

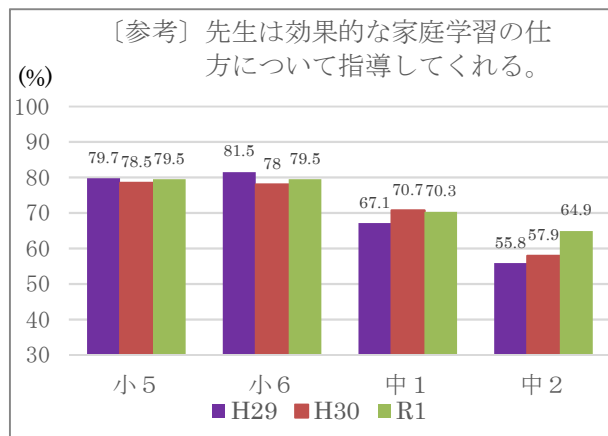
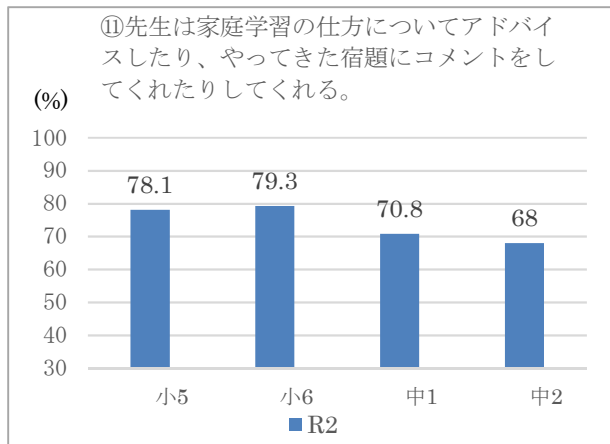
(3) 学習習慣

- 各学校において、家庭学習の仕方についてアドバイスをしたり、やってきた宿題にコメントをしたりするなど、子どもたちの学習意欲を高める取組が行われている。
- 授業以外の平日（月曜日から金曜日）1日あたりの学習時間をみると、各学年ともに1～2時間程度学習する子どもたちの割合が高くなっており、家庭学習の充実が図られている。一方、ほとんどしないと回答する子どもたちの割合も高くなっており、家庭学習の習慣化に対する取組も必要である。



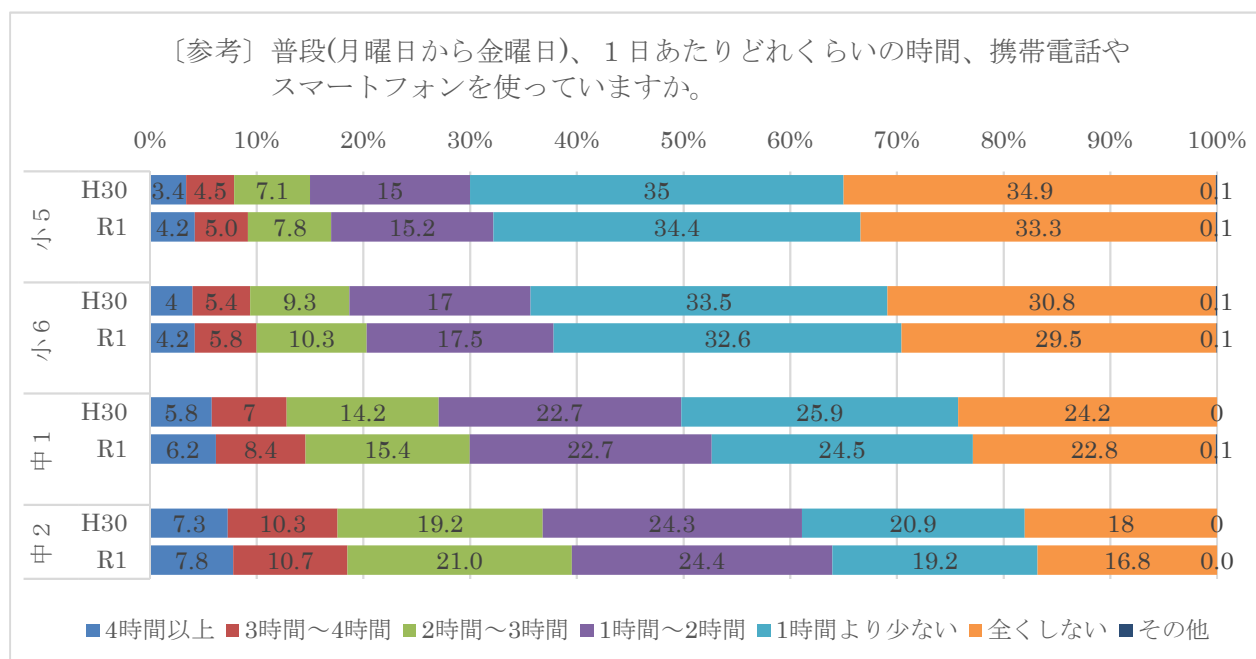
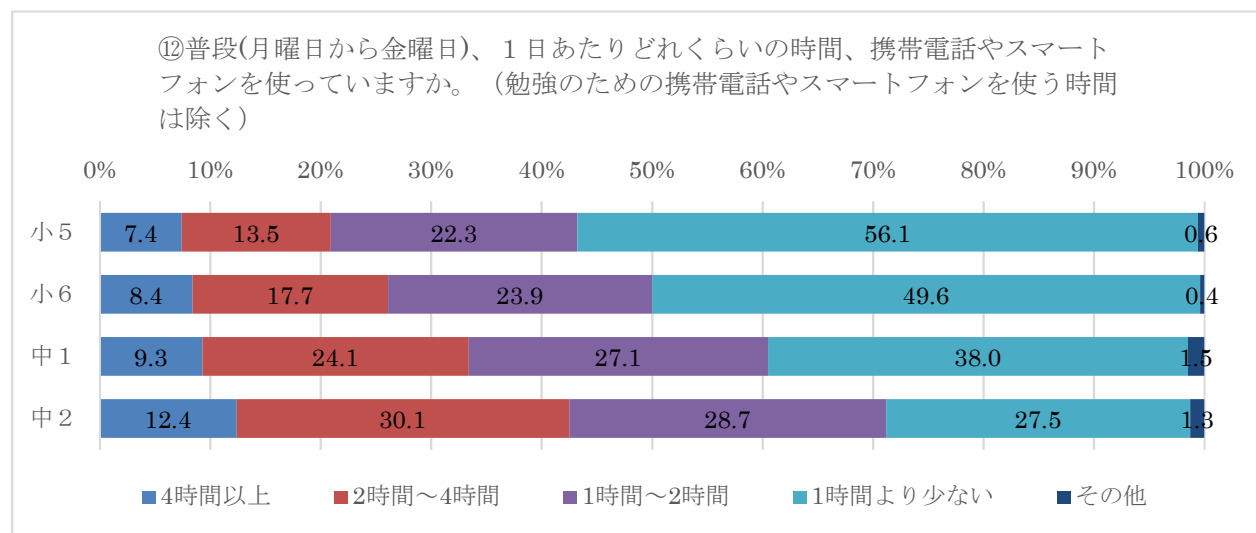
⑩ (%)

	R1	R2	全国値
小5	79.6	79.0	70.5
小6	83.1	81.5	74.6
中1	71.9	73.0	67.5
中2	68.9	69.9	54.6



(4) その他

○平日、1日あたりの携帯電話やスマートフォンの使用時間は、年々増加しており、特に4時間以上使う割合が大きく増加している状況である。適正な使用方法についての指導・啓発をしたり、家庭でのルールづくりを促したりするとともに、児童生徒のメディア接触の実態を把握し、きめ細かく指導をしていく必要がある。



IV. 今後の対応

県教育委員会と市町村教育委員会が連携・協力し、全国学力・学習状況調査及び県学力調査結果分析に基づいた指導の改善を推進する。

新学習指導要領の円滑な実施に向け、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善を更に推進する。

☞ 島根の子どもたちが、ふるさと島根に愛着と誇りを持ち、自らの目標をもって、難しい課題に粘り強く取り組んだり、誰も取り組もうとしない課題に挑戦したりする学びの開拓者であってほしいと考えます。その達成に向け、学んでいることと地域や社会とのつながりが実感できる授業に改善していきます。

1 「しまねの学力育成推進プラン」を策定し、市町村教育委員会と連携・協働のもと、各学校の学力育成を支援する。

☞ 小中高の系統性・連続性を図りながら、基礎的な知識・技能をしっかりと身に付けさせ、人生や社会で生かすことのできる確かな学力と学び続ける意欲を育む教育の推進

○授業の質の充実

- ・ICTやふるさとの地域素材を有効に活用し、主体的・対話的で深い学びの視点をもった授業づくり
- ・学力・学習状況調査等の各種調査の分析を参考にした、組織的かつ計画的な授業の質の充実

○家庭学習の充実

- ・子どもたちの自主的な学びを支援する授業の在り方の研究や家庭との連携
- ・ICTを活用した家庭学習の在り方の研究

○地域に関わる学習の充実

- ・各教科の学習が地域や社会の役に立つことへの理解促進
- ・探究の過程を踏まえた系統的で連続性のある総合的な学習の時間の在り方の研究

2 県学力調査分析方法説明会を実施し、各校において調査結果分析が効果的・効率的に実施され、組織的な授業改善や個別指導が進められるように働きかける。

☞ 各学校の組織的な授業改善の取組や個別指導の充実をめざし、各校の学力育成の中核を担っている教員を対象にWebを活用した分析方法について説明会を実施。

3 課題に基づく今後の指導改善のポイントについて、次年度「各教科等の指導の重点」にまとめ、すべての小・中・高等学校等に配付し、徹底を図る。